

県教委

高校生の海外留学支援

高校生よ海外を目指せ。徳島県教委は、国際社会で活躍できる人材の育成へ、高校生の留学支援制度を創設した。2011年度に留学した県内公立高校生は7人と、05年度の20人をピークに減少。背景には不況のほか、現代っ子の「内向き志向」も指摘されており、説明会や経費補助を通じて留学を促す。



留学先のホストファミリーと雪だるまを作る徳島市立高校生⑤—2012年2月、米サギノー市(同校提供)

県教委は9月補正予算に事業費約600万円を計上。今月15日には、徳島市のJA会館で県内の中高校生や保護者を対象にした「とくしま留学フェア」を開き、留学経験者の講演のほか、高校生の交換留学プログラムを手掛ける団体の説明・相談会を行う。

英語教育や国際交流に力を入れている城南、徳島北、城北、池田、城ノ内中・高の5校には、ビジネスや留学で海外経験が豊富な人材を派遣し、

経費補助「国際社会で活躍を」

授業や講演会を開く。生活費を含めて年間200万円前後かかる留学費用の支援策では、1人40万円を補助する制度を創設。選考基準を決め、各公立・私立高校や阿南高専、特別支援学校高等部の生徒から補助申請を募っている。12年度は6人以内が対象となる。

県教委によると、3か月以上の海外留学をした公立高校生は09年度に6人と1桁になり、10年度も7人だった。11年度は徳島北4人、徳島市立2人、城東1人で、留学先は米国3人、カナダ2人、オーストラリアとニュージーランド各1人。徳島市の交換留学生と聞くと、11年8月から12年6月まで米サギノー市の公立学校に留学していた徳島市立高3年の春藤優太君(18)は「語学が身に付いただけでなく、文化や家庭生活を体験でき、人間的にも成長できた」と振り返る。

留学の減少は全国的な傾向で、日本青少年研究所(東京)の11年度全国抽出調査では、留学したと答えている日本の普通科高校生は46%と、近隣の韓国82%、中国58%を大きく下回った。

県教委は、グローバル化が進む中、意欲ある高校生に語学力や国際感覚を身に付けさせようと、留学促進策を検討。8月、市民団体・JTMとくしま日本語ネットワーク(徳島市)と「高校生留学等推進協議会」を発足させ、留学経験者に話を聞くと、11年8月から12年6月まで米サギノー市の公立学校に留学していた徳島市立高3年の春藤優太君(18)は「語学が身に付いただけでなく、文化や家庭生活を体験でき、人間的にも成長できた」と振り返る。